

令和5年度田川市地域水田農業推進協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

田川市は、全耕地面積に占める水田の割合が93%であり、土地利用型農業においては、水稻の他、麦・大豆を担い手の経営を支える重要品目と位置づけ、生産拡大、畜産農家との連携を図っている。

また、小松菜、キク、トルコギキョウ、イチジク等、水田における作付け作物は多岐に渡り、収益性の高い園芸農業も展開されつつある。

一方、気象条件や生産体制の各条件等により、水稻では高温障害等による品質の低下、麦では作付け拡大の停滞、大豆では地域による単収のばらつきなどが課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要が減少する中で主食用米以外の作物への転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。麦・大豆の収量、品質向上のために担い手への農地の集積、排水対策等の推進を行うとともに、小松菜、キク、トルコギキョウ、イチジク等の収益性の高い園芸品目の作付拡大について関係機関が連携し支援を行っていく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

生産者からの営農計画書の記載事項や水田台帳に基づくほ場の現地確認等により、畑作物のみの生産が続く水田や自己保全管理となっている水田について、高収益作物への転換を促進するなど、畑地化を推進する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本としつつ、「夢つくし」「ヒノヒカリ」を中心とした良食味品種の作付けや需要に即した特別栽培米等の取組みなど、消費者・実需者から望まれる米づくりを推進する。

また、高温対策の徹底や県育成品種である「元気つくし」への転換等により品質向上を図る。さらに、地産地消による直売所の活用など地域の特徴を活かした需要の確保を図っていく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

需要確保に努め、産地交付金を活用して複数年契約での多収品種の導入に対する支援を行う。また担い手による作付や耕畜連携（わら利用）も行いながら、収量向上や需要者（畜産農家）との長期契約を推進する。

さらに、生産技術を確立し、生産コストの低減による収益性の向上を図るために直播栽培の導入・拡大を図る。

イ WCS 用稲

産地交付金を活用し、担い手による作付の支援、耕畜連携（資源循環）を行いながら、需要に応じた生産確保に努め、病虫害防除や雑草管理等を適切に行うように推進する。

（３）麦、大豆、飼料作物

ア 麦

麦については、排水対策を推進し、収量の向上を図る。契約栽培の円滑な推進を図るため、タンパク質含有量の基準値達成を目指し、品質分析を行うとともに、チクゴイズミの品質特性を十分に活かし得る栽培技術を確立する。また、産地交付金を活用し、担い手による二毛作作付けの拡大を図る。

イ 大豆

大豆については、排水対策を推進し、収量の向上を図る。また、産地交付金を活用して担い手による作付けを支援しちくしB5号を中心に作付面積の拡大を推進する。

ウ 飼料作物

需要者との契約に基づき産地交付金を活用、担い手による作付や二毛作作付け拡大、耕畜連携（資源循環）の取り組みを行う。

（４）高収益作物

従来から産地化を図ってきた作物（小松菜、キク、トルコギキョウ、イチジク等）については、産地交付金を活用して 作付け支援を行いながら市場の動向に合わせて作付面積の拡大を図る。

更に安全で高品質な農産物を生産し、あわせて高性能省力機械等の導入を推進し、産地の強化を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等 ～ 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和5年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	404.6		347.6		347.6	
飼料用米	40.5		40.5		40.5	
WCS用稲	37.8		37.8		37.8	
麦	159.5	146.4	159.5	146.4	159.5	146.4
大豆	59.8		59.8		59.8	
飼料作物	2.6	2.5	2.6	2.5	2.6	2.5
高収益作物	9.8		9.8		9.8	
・ 野菜	5.5		5.5		5.5	
・ 花き・花木	4.1		4.1		4.1	
・ 果樹	0.2		0.2		0.2	
畑地化	0		0		0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目 標		
				前年度（実績）	目標値（令和5年度）
1	麦・大豆	麦・大豆（担い手）加算（基幹作）	麦：交付対象面積（ha）	13.1	13.1
			大豆：交付対象面積（ha）	59.8	59.8
2	麦	麦・二毛作加算（二毛作）	交付対象面積（ha）	146.4	146.4
			二毛作作付率（％）	22.2	22.2
3	飼料作物	飼料作物・二毛作加算（二毛作）	交付対象面積（ha）	2.5	2.5
			二毛作作付率（％）	0.4	0.4
4	WCS用稲・飼料作物	耕畜連携（資源循環）助成（基幹）	作付面積（ha）	36.1	37.8
			堆肥散布面積（ha）	36.1	37.8
5	飼料用米	耕畜連携（わら利用）助成（基幹）	飼料用米作付面積（ha）	40.5	40.5
			わら利用面積（ha）	17.9	23.0
6	野菜・花き・果樹	地域振興作物助成（基幹）	交付対象面積（ha）	9.8	9.8

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:田川市地域水田農業推進協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	麦・大豆(担い手)加算(基幹作)	1	11,000	麦・大豆	地域水田収益力強化ビジョンに位置付けられた担い手が、基幹作で麦・大豆を作付した面積に応じて支援、排水対策
2	麦・二毛作加算(二毛作)	2	5,000	麦	地域水田収益力強化ビジョンに位置付けられた担い手が、二毛作で麦を作付した面積に応じて支援
3	飼料作物・二毛作加算(二毛作)	2	12,000	飼料作物	地域水田収益力強化ビジョンに位置付けられた担い手が、二毛作で飼料作物を作付した面積に応じて支援
4	耕畜連携(資源循環)助成(耕畜連携)	3	10,000	飼料作物・WCS用稲	耕畜連携を行い、基幹作で飼料作物・WCS用稲を作付した面積に応じて支援
5	耕畜連携(わら利用)助成(耕畜連携)	3	10,000	飼料用米	耕畜連携を行い、基幹作で飼料用米を作付した面積に応じて支援 多収品種での取組
6	地域振興作物助成(基幹)	1	12,000	野菜・花き・果樹(「別表」に掲げる作物)	販売を目的に基幹作で対象作物を作付した面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。